

団月間の卓話などに活躍しています。人類に恩恵を与える無数の業績を上げる役割を担った、ロータリーが求める世界平和のために貢献している人々が多くいます。財団学友は、2006年7月末現在、世界で9万6,000人、日本で9,294人が活躍しています。日本には、1967年創立のロータリーフェローズ東京という伝統ある学友会があり、350名のメンバーを擁しています。会員として適格な学友に、積極的にクラブ入会を勧めましょう。

ロータリー財団は、ロータリーの活動の中でも大変重要な位置づけにあります。本年度も、1人120ドル以上の寄付をお願いいたします。

最後に、ロータリーマスターカードについて。これは2003年度より発行されているカードでして、加入目標は5,000名で、現在、2,771名が加入しています。カードの仕組みは、カードの利用金額の3%が財団に還元されるというものですので、このカードについても、皆様のご協力をいただきたいと思います。ありがとうございました。

<職業奉仕委員会>

小塚委員長

まず2点、お礼と報告をさせていただきます。職場訪問の企画に対して、皆様のご賛同をいただきまして、定員ぴったりの50名でまいります。楽しみになさってください。それから高校野球の選抜の出場権について、桐光学園は現在、ベスト4に入っております。先日の準々決勝では17対0の成績でしたので、期待していいのではないかと思います。

さて、9月22日にクラブ奉仕委員長会議があり、職業奉仕に関する勉強会がありました。教育改革がテーマで、いじめ、不登校、校内暴力、学校崩壊、凶悪な青少年犯罪、増加するフリーター、ニートなど、このままいくと日本は大変なことになってしまうので、ロータリーも何らかの活動をしようという動きがあります。2002年から具体的に、文部科学省とロータリーとの間で話し合い、ロータリーが学校へ講師を派遣するために名簿を提出する。ロータリーが、先生や生徒を対象に職場体験をしてもらうために、これに賛同する事業所の一覧表を提出する。その他、地域にあった教

育活動を学校と相談して行うといったことです。たとえば救急救命士や、インターネットを通じて足長募金の活動をするなどということはずでに行ってきました。

職業奉仕委員会として教職員に民間企業を体験させようという動きは、2003年4月に本牧で始まっています。そして、2006年7年度は、現在45社が職業体験受け入れに賛同して、すでに81名が研修を受けたそうです。これは、すべて横浜のことです。実践の秘訣は、対象をこれから副校長になる予定の教師に絞ったところにあるようです。民間の企業で勉強してくる必要性をなかば強制的に理解させているようで、たとえば、ある教師は夏休みにインターコンチネンタルでバルボーイをして、接客業を経験したそうです。

残念ながら、川崎市ではこのプログラムが学校側になかなか受け入れられず、まだスタートしていませんが、今年から動き出そうというところです。したがって、各クラブにおいてこのプログラムに参加していいという企業は申し出てほしいということです。

また、生徒にも職業体験をさせようというプログラムも始まっています。職業奉仕委員会として、こんな活動が具体的に動き出したことはすばらしいと思います。ご理解いただいて、積極的に参加していただければありがたいと思います。ありがとうございました。

